



久留米大学

御井図書館ニュース

No.71 2009年9月1日発行

音読と黙読

大学院心理学研究科長 木藤恒夫

大学図書館を利用する人のほとんどは本を黙読している。しかし、休日の市民図書館では、声を出して本を読んでいる子どもが少なくない。小さな子どもは黙読が苦手である。声に出さずに文字を追っていくことは難しく、どこまで読み進めているのかがわからなくなるらしい。

文章を音読するか黙読するか、これには言語や思考の認知発達が関わっている。小学校低学年の児童では、まだ音読が黙読よりも優位であり、ついつい声が出てしまう。この時期の読書は文字や単語の習得がひとつの目的であり、文字や単語を覚えるには音声によるフィードバックが大いに役立つことになる。学年が進むにつれ、文章の内容理解が重要になるため、考えながら文章を読み進めることになる。文章理解中に発せられていた外言は、徐々に内化していき、やがて内言とよばれる思考の言語に移行する。

大人の場合、音読に比べて黙読の方が文章理解には有利である。内言化された概念を操作することにより、文章の意味理解が促進されるためである。文章で与えられる情報を効率よく処理するには、やはり黙読の方が断然有利である。声を出しての読みのスピードには限界があり、いわゆる速読には適さない。表語文字である漢字は、たとえ音韻的に正確な読みが不明でも、語句の意味処理は進むという利点がある。とくに漢字と仮名を併用する日本語では、漢字のみの飛ばし読みによる文章理解が可能である。そして何よりも、黙読は隣人に迷惑をかけることがない。

「声を出して読みたい日本語」（齋藤孝著、草思社）という本が売れた。この本がきっかけとなり、日本語の美しさを再認識すると同時に、文章の音読、朗読あるいは暗誦することの良さが見直されてきた。他の言語に比べて、日本語は「ドキドキ」のような物が発する音を模倣する擬音語や、「たっぷり」とかの状態を表す擬態語などの擬声語（オノマトペ）が豊富である。オノマトペの音韻からは視覚的イメージが形成されやすく、音読によって文章の表現力が増す。また、黙読よりも音読の方が記憶の促進効果が大い。視覚と聴覚のチャンネルの併用により、発声に関わる部位を含む脳の広い範囲が活性化され、文章や物語の逐語的記憶が促進されることになる。かつてわが家には、まるで念仏を唱えるかのように教科書の文章を繰り返し音読する受験生がいた。

あなたは音読派ですか、黙読派ですか。もっとも、時おり言葉を発する「ツブヤキ」派というものもあるようですが。

「私と図書館」

きゅうずい

大学院ビジネス研究科 邱 瑞

私は2002年4月に来日し、2004年4月に久留米大学商学部に入學した中国人留學生である。昨年商学部を卒業し、大学院ビジネス研究科に入學して、現在マネジメントコースで研究している。

私の久留米大学での勉學と図書館とは、切っても切れない関係にある。それは、久留米大学の別科で二年間日本語の勉強を行い、その時の図書館利用の主な目的は、日本語関係の本を調べることであった。静かな雰囲気、たくさんの本に囲まれて集中して勉強でき無事に商学部を合格することができた。図書館は学部學生が勉強する場にとって、非常に重要だと深く感じた。

学部入學後は、専門の事柄についての知識を深め、たくさんの新しい専門知識を吸収することで、勉強の意欲も湧いてきた。図書館の新聞コーナーをよく利用したが、愛読「紙」は日本経済新聞であった。経済面、国際政治面等から世界の政治・経済情勢等を学び、日本語の勉強にもなった。また、卒業論文作成のために、三年生の後期以降は関連する図書や雑誌の閲覧のため、図書館をよく利用した。先生方のご指導もあって、論文が完成したが、図書館利用を通して、自分が興味を持つ分野の専門知識を深めることができた。

ビジネス研究科入學後は、別科や学部在籍時とは違い、利用する場所が変わった。大学院では専門領域により深く立ち入らなければならず、研究者の論文等にも目を通さなければならない。

図書館には、おおくの大学の紀要、研究論文等が蔵書され、学部生在籍時は論文の検索方法や所蔵場所についてはほとんど無知であったが、関係分野の研究論文を読み進め、この分野の研究が今どこまで進んでいるのか、また、どんな課題があるのが分かってきた。

各大学の紀要等を検索し探し出して論文等をコピーし、その内容を理解して、新しいものを発見した時の喜びは例えようがない。内容をしっかり理解した上で、研究論文作成に生かす能力を培った貴重な経験ともなった。

中国に「井戸の蛙」という諺がある。「視野が狭い、井戸の中のことしかわからない。」という意味である。私は、そのようにならないように、もっと多くの知識を吸収しなければならないと考えている。

大学院修士課程の二年間で、図書館とはさらに深い関係をもつことになるだろう。

最後に、御井図書館は昨年、内部の一部改修工事され、以前よりもっと快適になり、利用し易くなった。しかし、大学院生の私にとって、一つ不便と感じるところがある。大学院生は論文を参考にすることが多いが、関連する論文の多くは地下書庫に所蔵されている。本学に所蔵していない論文を探す場合のWEB検索ネットは地下書庫に無く一階でしか利用することができない。地下の検索パソコンは本学OPAC（学内蔵書限定）であり、少し不便だと感じている。この点は改善していただきたい。

寄 贈 図 書 (学内関係者)

受入期間:2009/04/01～2009/08/31受入分

本学教員著書は、閲覧室1階「寄贈コーナー」に配架しております。

寄贈者氏名	著 者	タ イ ト ル	出 版 者
秋本 耕二	有吉範敏[ほか]編	SNA・経済成長・環境 (応用経済分析:2)	勁草書房
石川 捷治	研究代表者石川捷治	朝鮮半島での「8月15日」後をめぐる歴史像の再構成 CD-ROM	[久留米大学]
大家 重夫	古野喜政著	金大中事件の政治決着：主権放棄した日本政府	東方出版
大家 重夫	井沢元彦, 呉善花著	やっかいな隣人韓国の正体：なぜ「反日」なのに、日本に憧れるのか	祥伝社
大家 重夫	重村智計著	外交敗北：日朝首脳会談と日米同盟の真実	講談社
大家 重夫	坪井幸生著 / 荒木信子協力	ある朝鮮総督府警察官僚の回想	草思社
大家 重夫	金完燮著/荒木和博, 荒木信子訳	親日派のための弁明	草思社
大家 重夫	中川八洋著	歴史を偽造する韓国：韓国併合と搾取された日本	徳間書店
大家 重夫	A.V.トルクノフ著/下斗米伸夫, 金成浩訳	朝鮮戦争の謎と真実：金日成、スターリン、毛沢東の機密電報による	草思社
大家 重夫	関川夏央著	退屈な迷宮：「北朝鮮」とは何だったのか	新潮社
大家 重夫	佐木隆三著	伊藤博文と安重根	文藝春秋
大家 重夫	鄭大均著	日韓のパラレリズム：新しい眺め合いは可能か	三交社
大家 重夫	趙甲濟著/黄珉基訳	韓国を震撼させた十一日間	JICC出版局
大家 重夫	李秉喆著	市場は世界にあり	講談社
大家 重夫	黒田勝弘著	韓国社会をみつめて：似て非なるもの	亜紀書房
大家 重夫	司馬遼太郎 [ほか] 著	日本の朝鮮文化：座談会	中央公論社
大家 重夫	重村智計, 長谷川慶太郎著	北朝鮮自壊：日米中が握る軍事独裁国家の命運	東洋経済新報社
大家 重夫	木村幹著	韓国現代史：大統領たちの栄光と蹉跌 (中公新書:1959)	中央公論新社
大家 重夫	重村智計著	金正日の正体 (講談社現代新書:1953)	講談社
大家 重夫	綾野著/富坂聰編	中国が予測する“北朝鮮崩壊の日” (文春新書:637)	文藝春秋
大家 重夫	三橋貴明著	トンデモ!韓国経済入門：歪んだ資本主義はどこへ向かうのか!? (PHP paperbacks)	PHP研究所
大家 重夫	鈴木琢磨著	テポドンを抱いた金正日 (文春新書:535)	文藝春秋
大家 重夫	木村幹著	朝鮮半島をどう見るか (集英社新書:0241A)	集英社
大家 重夫	木宮正史著	韓国：民主化と経済発展のダイナミズム (ちくま新書:426)	筑摩書房
大家 重夫	金文学, 金明学著	韓国民に告ぐ!：日本在住の韓国系中国人が痛哭の祖国批判 (祥伝社黄金文庫)	祥伝社
大家 重夫	黒田勝弘著	韓国人の歴史観 (文春新書:022)	文藝春秋
大家 重夫	呉善花著	攘夷の韓国開国の日本 (文春文庫)	文藝春秋

寄贈者氏名	著 者	タ イ ト ル	出 版 者
大家 重夫	重村智計著	北朝鮮データブック(講談社現代新書:1359)	講談社
大家 重夫	重村智計著	朝鮮病と韓国病:「差別」問題のタブーを明かす(カッパ・ブックス)	光文社
大家 重夫	池東旭著	韓国の族閥・軍閥・財閥:支配集団の政治力学を解く(中公新書:1351)	中央公論社
大家 重夫	方燦榮, 重村智計著	北朝鮮崩壊せず:金正日を支える「変身」と「みなし」の理論(カッパ・ブックス)	光文社
大家 重夫	小室直樹著	韓国の呪い:広がるばかりの日本との差(カッパ・ビジネス)	光文社
大家 重夫	長谷川慶太郎, 佐藤勝巳著	北朝鮮崩壊と日本:アジア激変を読む(カッパ・ビジネス)	光文社
大家 重夫	渡辺吉鎔著	韓国言語風景:揺らぐ文化・変わる社会(岩波新書:新赤版438)	岩波書店
大家 重夫	呉善花著	ワサビと唐辛子:恨の国・韓国から見た「受け身文化」の国・日本(ノン・ブック)	祥伝社
大家 重夫	小室直樹著	韓国の崩壊:太平洋経済戦争のゆくえ(カッパ・ビジネス)	光文社
大家 重夫	司馬遼太郎 [ほか] 著	日韓ソウルの友情:座談会(中公文庫)	中央公論社
大家 重夫	崔青林著/鶴真輔訳	韓国の自己批判:日本人が知らない真実(カッパ・ビジネス)	光文社
大家 重夫	小室直樹著	韓国の悲劇:誰も書かなかった真実(カッパ・ビジネス)	光文社
大家 重夫	渡辺吉鎔, 鈴木孝夫著	朝鮮語のすすめ:日本語からの視点(講談社現代新書:614)	講談社
大庭 卓也	東洋文庫日本研究委員会編纂	岩崎文庫貴重書書誌解題 3	東洋文庫
大庭 卓也	東洋文庫日本研究班編纂	岩崎文庫貴重書書誌解題 4	東洋文庫
大庭 卓也	川平敏文 [ほか] 著	福岡藩儒竹田春庵宛書簡集(雅俗研究叢書:1)	雅俗の会
大庭 卓也	公募共同研究「江戸時代中期文人大名に見る学芸と思想に関する総合的研究」編	研究成果報告「鹿島鍋島藩の政治と文化」	人間文化研究機構 国文学研究資料館
島村 賢一	晶文社出版編集部編	大学院受験案内 2008年度用	晶文社出版
島村 賢一	ジャン・パウエル著/恒吉法海訳	ジャン・パウエル中短編集 2	九州大学出版会
張 国興	朱維瑜主編	世界年鑑 2008	中央通社
張 国興	王永志主編	台湾名人録 2008	中央通社
東 孝行	金子宏 [ほか] 著編集代表	法律学小辞典 第4版補訂版	有斐閣
東 孝行	佐藤進, 齋藤修編集代表	現代民法学の理論 上巻:西原道雄先生古稀記念	信山社
保坂 恵美子	久留米大学比較文化研究所 健康生きがいのあるまちづくり事務局編	平成20年度学生ボランティアによる健康生きがい・まちづくり実践報告集	久留米大学比較文化研究所
真部 和義	全国国立大学附属学校連盟[編]	創立50周年記念誌	九州六大学野球連盟
吉田 典子	福祉士養成講座編集委員会編	医学一般 新版, 第4版(社会福祉士養成講座:13)	中央法規出版

*敬称略50音順



図書館利用状況 (2009年度)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
開館日数		29	27	30	31	30	147
入館者数	対前年度同月比	-3,125	-4,373	-2,497	-7,384	1,123	-16,256
	学内者	19,800	18,026	22,346	31,625	8,912	100,709
	対前年度同月比	-5	286	452	-290	-78	365
	その他学外者	1,749	2,035	2,686	1,547	1,375	9,392
地域住民 登録者数	対前年度同月比	-27	-5	-24	-20	7	-69
	地域住民	44	48	33	39	55	219
貸出冊数 (学生)	対前年度同月比	8	-65	78	-364	162	-181
	全体	1,609	2,056	2,400	2,648	999	9,712
	対前年度同月比	50	36	40	-83	22	65
	内、夜間	364	550	601	646	112	2,273
	対前年度同月比	-22	111	-12	-74	25	28
	内、土・日曜	115	286	151	218	172	942
	一人当たりの貸出数	0.25	0.33	0.38	0.42	0.16	1.54
貸出冊数 (教職員)	対前年度同月比	-71	-9	-72	-83	-37	-272
	全体	765	370	266	249	140	1,790
	対前年度同月比	-11	-31	-7	-35	16	-68
	内、夜間	38	54	78	68	29	267
	対前年度同月比	-17	-16	5	-4	10	-22
	内、土・日曜	28	21	26	14	29	118
貸出冊数 (その他学外者)	対前年度同月比	12	51	6	36	95	200
	全体	197	236	233	120	247	1,033
	対前年度同月比	3	13	16	34	-1	65
	内、夜間	43	85	100	49	22	299
	対前年度同月比	46	38	-26	2	28	88
	内、土・日曜	81	83	54	20	86	324
AVライブラリー 利用件数	対前年度同月比	-23	-20	-9	16	-4	-40
	学生	5	2	18	42	0	67
	対前年度同月比	30	6	-1	-16	-9	10
	教職員	52	46	42	19	0	159
	対前年度同月比	-7	4	9	12	0	18
	その他学外者	2	11	12	13	0	38
相互利用 (文献複写) 申込件数	対前年度同月比	45	-158	-413	-32	-133	-691
	学生	136	201	146	58	79	620
	対前年度同月比	-16	201	49	9	33	276
	教職員	11	244	78	36	51	420
	対前年度同月比	0	0	0	0	0	0
	その他学外者	0	0	0	0	0	0
相互利用 (現物貸借) 申込件数	対前年度同月比	7	-6	-29	-6	-4	-38
	学生	9	21	15	6	2	53
	対前年度同月比	-16	6	16	8	-5	9
	教職員	15	16	25	22	18	96
	対前年度同月比	0	0	0	0	0	0
	その他学外者	0	0	0	0	0	0

<貸出冊数についての注記>

1. 教職員の貸出には、専任教員の研究室貸出分を含まない。
2. "夜間"とは、平日の17:00~21:00の夜間開館時間を指す。
*なお、4月1日~4月9日、8月6日~9月25日、2月1日~3月31日の期間は夜間開館を行っていない。
3. 地域住民への貸出は、7月10日~8月5日、1月4日~1月29日の期間は停止している。
4. 学生一人当たりの貸出数は、平成21年5月1日現在の御井キャンパスの学生数で算出。

編集・発行 久留米大学御井図書館
〒839-8502 久留米市御井町 1635
TEL (0942)44-4015
FAX (0942)43-0348
<http://www.mii.kurume-u.ac.jp/miilib/>

